

高齢者と人権

～いつまでも生き生きと暮らせる社会へ～



いつまでも元気できてねー!

大おばあちゃん

小学二年生

大おばあちゃんは、いつもおさいほうをして
いるか、つぼを作っています。大おばあちゃん
は、おさいほうも、つぼ作りも上手です。

この夏休みに、大おばあちゃんにおさいほう
を教してもらいました。小さく切って、ぬのを
合わせて、はりと糸ではしっこをぬいました。
なかなか上手くぬえなかったけど、大おばあ
ちゃんが、

「ゆっくり合わせてぬいなさい。ーはりーはり
ていねいにぬっていくといいよ。」

と、やさしく教えてくれました。大おばあちゃんに
教してもらった通りに、ゆっくりゆっく
りをさして、ふくろを作りました。ーまいの
小さなぬのがふくろになり、とてもふしぎで、
楽しく思いました。大おばあちゃんに

「とても上手にできたね。」
とほめてもらって、とてもうきうきしました。

大おばあちゃんは、はたけで野菜も作って
います。大おばあちゃんは、自分で作ったじゃ
がいもで、コロッケも作ってくれます。サクサ
クしてとてもおいしいです。サクサクさせ
ることは、パンこをつけるときに、たまごこ
むぎこと水を合わせたものをつけることです。

大おばあちゃんは、せんそうのことも話して
くれます。学校にばくだんがおちて、たくさん
の子どもたちがしんだそうです。そして、大お
ばあちゃんは、赤ちゃんだったおばあちゃんを
だいて、にげたそうです。先生をしていた大お
ばあちゃんは、子どもたちが死んでしまって、
すごくさびしくて、くやしかったそうです。

「せんそうは、ぜったいしたらだめ。」
と話してくれました。なみだが出そうで、「ぜ
ったいに、せんそうはしない」と思いました。

大おばあちゃんは、今年、九十四さいになり
ました。大おばあちゃんの知えや体けんしたこ
とを、もっともって教えてもらいたいです。
いつまでも元気でいてねー!大おばあちゃん。

人権作文集「人権の芽」第11集より

伊勢市環境生活部
人権政策課

TEL (0596) 21-5545
URL <http://www.city.ise.mie.jp>



表紙：平成29年度人権尊重啓発ポスター小学3年生の部 市長賞

高齢社会の現状

我が国では、平均寿命の大幅な伸びや少子化等を背景として、急速に高齢化が進んでいます。2016年6月現在、65歳以上の方は26.8%とおおよそ4人に1人となっています。今後も高齢化が進み2035年にはおおよそ3人に1人が65歳以上になると推定されています。このような情勢のなか、高齢者の人権が正しく擁護され、安心して生きがいを持った生活が送れる社会環境づくりが急務となっています。

深刻化する高齢者虐待

高齢化が進む中、高齢者に対する虐待が大きな社会問題となっています。高齢者への虐待は、次のようなものがあります。

種類	例
身体的虐待	殴る、蹴る、叩く、つねる、体を縛りつけるなど
心理的虐待	怒鳴る、ののしる、脅しや侮辱するなど言葉や態度で精神的な苦痛を与える
財産的虐待	必要なお金を与えない、勝手に財産を処分するなど
性的虐待	性行為を強要する、下半身を裸にして放置するなど
無視・放置 (ネグレクト)	介護の必要な状況で何もせず放置すること

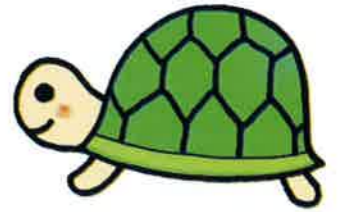
これらは、高齢者の介護を行う家庭内や、老人ホーム・介護施設などの社会福祉施設内でも発生しています。特に、家庭内での虐待は、介護疲れの肉親が精神的に追い詰められて行うというケースが多く、被害者が認知症患者や寝たきりなどの場合は会話自体もままならないため、虐待が表面化しにくいという特徴があります。介護を行う人を孤立させないようにしたり、周囲が早めに気づき相談窓口につないだりすることが重要です。

高齢者の人権に関する法律

平成18年4月「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援に関する法律」が施行され、高齢者に対する本格的な対策が始まりました。

養介護施設、病院、保健所等の関係団体や医師、保健師、弁護士といった、高齢者虐待を発見しやすい立場にある人々には早期発見の努力が義務づけられています。

高齢者が生き生きと暮らせる社会へ



職場で活躍する

高齢者が安心して自立した生活を確保し、生きがいを持って社会の一員として生活するには、高齢者の雇用の維持・発展が不可欠です。そのため国では、希望者全員が65歳まで働けるよう、定年の引き上げ、継続雇用制度の導入などを促進しています。

社会参加で生きがいを感じる

高齢者も社会を構成する重要な一員です。高齢者を「役に立たない」などと社会の端へ締め出してしまうと、人々が安心して暮らせる社会をつくることはできません。例えば、子育て経験豊富な高齢者が、若い親たちの育児の相談を受ける仕事をするなど、高齢者が生きがいを持って社会参加できるよう、世代を超えた交流が必要です。

優しいまちづくり

毎日の暮らしが高齢者にとって豊かになるように、快適な住環境や使いやすい商品を開発することも、高齢社会への対応として考えていかなければなりません。公共施設や道路などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの考え方で作られた製品や施設など、優しさにあふれた環境づくりがこれからの課題です。

高齢者の尊厳を守るには

現代社会の中で、核家族化が進み高齢者の独居や夫婦二人だけの世帯が増え、生活環境が変化していることが高齢者に対する理解を妨げる要因の一つとなっています。また、高

齢者の身体的・精神的・立場的な弱みにつけこんだ「虐待」や「振り込め詐欺」などの犯罪も後を絶ちません。こういった問題をなくし、高齢者の尊厳を守るためには、高齢者のこれまで果たしてきた社会的役割の重要さや、加齢に伴う肉体的・精神的衰え、不安などを正しく理解・認識することが不可欠です。私たち一人ひとりが高齢者と共に支え合いながら生きるという意識を持ち、誰もが生き生きと暮らせる社会をつくりましょう。

